

(公社) 日本植物学会2024年度事業報告

(2024年1月1日～2024年12月31日)

I. 事業の状況

事業の概要

本学会は、植物科学に関する研究の進展と知識の普及に関する事業を行い、学術の発展に寄与することを目的としている。2024年度は、下記の2公益事業を中心に、高い公益性を実現するための施策と事業を展開した。

(公益事業1) 学会誌及び学術図書の発行、及びインターネットによる植物学と関連技術の最新情報公表

学術雑誌の刊行については、Journal of Plant Research (JPR) 137巻1号～6号(6冊)の発行と電子出版を行った。科学研究費補助金「国際情報発信強化(B)」に関する事業を実施した。植物科学関連の学術集会、研究動向、出版物、研究助成公募、求人公募等の植物科学教育研究情報を収集し、その情報を学会情報誌や日本植物学会ウェブサイトを通じて提供した。さらに一般向け情報をウェブサイト上で公開した。国内外の研究機関に対して、JPRの寄贈と交換を行った。日本植物学会の所蔵図書を会員や外部閲覧希望者に無料で公開した。

(公益事業2) 研究発表大会及びシンポジウム・学術講演会・講習会の開催及び関連団体との協働による植物科学の発展と関連技術の振興の推進

定例学術集会として、日本植物学会大会を開催した(大会事務局は栃木県宇都宮市に設置)。また社会への啓発活動等として、大会において一般公開講座および高校生研究ポスター発表会を開催した。これらに加えて、一般向け講演会をオンラインで開催した。学術業績の表彰その他研究の奨励として、日本植物学会賞の選考と授与を行った。さらに、大会時に高校生研究ポスター賞を贈呈した。また各種団体による賞・研究助成金公募への推薦を行った。国内外の関係学術団体、学術連合との連絡及び交流などを協力事業として行った。講演会、講習会等の後援、また国際シロイヌナズナ会議への参加助成事業を行った。その他、各地の関連学会を通じた研究動向調査、植物科学教育研究情報の収集と公開を行った。

1. 学会誌及び学術図書の発行、及びインターネットによる植物学と関連技術の最新情報公表(公益事業1)

ア. 学術雑誌及びその他の出版物の刊行(電子情報も含む)

JPR編集委員会

(1) JPR 137巻1号～6号(論文頁数1203頁、論文総数81報、紙版:A4変形版、年6回隔月(奇数月)発行、発行部数660部、オンライン版:随時維持・整備、論文等記事のダウンロード数359,935)の編集と発行を行った。

- (2) 質の高い論文誌発行のため、以下の施策を実施した。
 - ① Current Topics in Plant Researchへの論文招待、JPRシンポジウム特集号の企画掲載、オープンアクセス論文の選考、を実施した。
 - ② インパクトファクターやその他の指標（分野別・国別被引用数、平均審査日数等）の解析を行い、ジャーナルの国際的な評価の向上策として、受賞記念論文1報を科学研究費補助金によりオープンアクセス化した。著者側の経費でオープンアクセスとした論文を加えて、オープンアクセス論文は計22報であった。
- (3) JPR編集協力委員（Editorial Board Member）の協力による編集体制の強化を図るとともに、読者データベースおよび投稿・審査システムを維持した。編集方針の整備と公開を行った。
- (4) 著者・購読者に対するサービスの向上のために、学会ウェブサイト上での和文要旨の公開と会員メールによる配信、およびジャーナルウェブサイト上でのPre-submission checklistの改善・公開を行った。
- (5) X（旧Twitter）による、JPRの発刊情報および掲載論文情報の発信を行った。
- (6) 編集委員会、拡大編集委員会（大会会期中）を開催し、JPRの質の向上のための意識統一と施策の検討を行った。

広報委員会

- (1) 植物科学関連の学術集会、研究助成公募、求人公募等の植物科学教育研究情報を収集し、日本植物学会ウェブサイトを通じて情報提供を行った。
- (2) 学会ウェブサイトのメンテナンスを実施し、利便性を高めた。
- (3) 一般向けサービスとして、ウェブサイト上でのハイスクール会友の入会案内を掲載した。
- (4) X（旧Twitter）によって、植物科学に関する情報発信（一般講演会や関連イベント、植物園や植物展示、最新研究紹介）を行った。
- (5) 一般講演会（2025年1月12日開催の一般向け講演会「植物が好き！-植物科学が拓く新しい世界-」）のウェブサイト上での宣伝、オンライン配信の準備、運営を行った。

電子出版物編集委員会

- (1) BSJ-Review vol. 15として、「植物進化の戦略分子」、「次世代シークエンサーがスポットライトを当てた「なまら」面白い生き物たち」、「脂質が旗振る植物の生命現象」の各総説の編集作業を行い、電子出版した。これらの総説にDOI番号を付与した。
- (2) BSJ-Review vol. 16の編集方針を決定し、執筆者に原稿依頼を行った。

イ. JPRの国内外の研究機関への寄贈と交換

- (1) 国内外の研究機関等に対してJPRの寄贈と交換を行った。
- (2) JPRとの交換で得られた雑誌を本学会員や外部閲覧者に無料で公開した。

ウ. 植物学関連図書の閲覧公開

東京大学大学院理学系研究科附属植物園に保管している日本植物学会の所蔵図書を、会員や外部閲覧希望者に無料で公開した。

2. 研究発表大会及びシンポジウム・学術講演会・講習会の開催及び関連団体との協働による植物科学の発展と関連技術の振興の推進（公益事業2）

ア. 学術集会、講演会、講習会などの開催

ア-1. 大会として

大会実行委員会

- (1) 日本植物学会第88回大会を2024年9月14日から9月16日までの3日間、対面にて開催した（大会事務局は栃木県宇都宮市に設置）。参加者は1007名、演題は602題であった。大会の要旨集（285ページ）を作成し発行した。一般向け公開講演会「栃木県の自然から見る生物多様性」（2024年9月16日に対面開催）の企画と実施、およびシンポジウムの公募と選定を行った。公募シンポジウム、口頭・ポスター発表、高校生ポスター発表会、展示ブースのためのプログラム作成と開催のための準備を行った。ダイバーシティ推進ランチョンセミナー「人生設計における博士号取得～先輩，博士は役に立っていますか？～」(2024年9月15日実施)を、理事会、ダイバーシティ推進委員会と協働で実施した。
- (2) 会員サービスとして、講演要旨集の電子媒体（電子ブック版）での提供を行った。
- (3) 大会の実施にあたって、運営に関しては庶務担当理事と、経理に関しては会計担当理事と連絡を密にし、大会の運営にあたった。
- (4) 日本植物学会賞受賞者（大賞1件、学術賞2件、奨励賞3件、若手奨励賞3件、特別賞1件、JPR論文賞3件）の授賞式と講演会を行った。高校生ポスター発表会の優秀ポスターについて、表彰を行った。

広報委員会

日本植物学会第88回大会における理事会主催シンポジウムを企画し、「植物科学のファンを増やそう！～植物の魅力ってなに？～」と題するシンポジウムを行った。

ダイバーシティ推進委員会

日本植物学会第88回大会におけるダイバーシティ推進ランチョンセミナーを大会実行委員会と企画し、「人生設計における博士号取得～先輩，博士は役に立っていますか？～」と題するダイバーシティ推進に関するセミナーを行った。

運営委員会

- (1) 庶務担当理事は大会の運営に関して、会計担当理事は大会の経理に関して、大会実行委員会の担当者と協議し運営を補佐した。

- (2) 庶務担当理事は、年次学術集会中の以下の委員会の開催について、大会実行委員会の担当者と協議した（運営委員会、臨時代議員会、JPR編集委員会、JPR拡大編集委員会、日本植物学会関連団体意見交換会、学会賞選考委員会、拡大広報・電子出版物編集委員会、ダイバーシティ推進委員会、大会引き継ぎの会合）。

ア-2. 学会全体として

一般向け講演会「植物が好き！-植物科学が拓く新しい世界-」（2025年1月12日）を企画し、オンラインにより開催した（当日参加登録者は243名、見逃し配信の登録者は445名、当日参加は178名）。また、2024年シロイヌナズナ国際会議（ICAR2024）への参加費用をサポートするICAR派遣事業を実施し、3名への参加費用補助（総額100万円、一人当たり約33万円を補助）を行った。その他、以下の講演会、講習会等の後援、協賛および共催を行った。

後援5件

- (1) 「第17回国際寄生植物学会」（主催：第17回国際寄生植物学会大会準備委員会）2024年 6月 3日～7日、会場：奈良春日野国際フォーラム 薨
- (2) 『『青少年のための科学の祭典』2024』（主催：（公財）日本科学技術振興財団 人材育成部「青少年のための科学の祭典事務局」）2024年 6月 8日～2025年 1月26日 会場：全国 44 会場
- (3) 「第 14 回 高校生バイオサミット in 鶴岡」（主催：高校生バイオサミット実行委員会（慶應義塾大学先端生命科研究所、山形県、鶴岡市）2024年 8月 21日～8月 23日 会場：慶應義塾大学先端生命科学研究soバイオラボ棟および鶴岡市先端研究産業支援センター
- (4) 「Plant Microbiota Research Network 第4回オンラインシンポジウム」（主催：Plant Microbiota Research Network）2024年 8月 27日 会場：高知Commuba+オンライン（ZOOM）
- (5) 「第40国際生物学賞記念シンポジウム」（主催：京都大学・日本学術振興会）2024年 12月 21日 会場：京都大学芝蘭会館

協賛 1 件

- (1) 「第24回マリンバイオテクノロジー学会大会」（主催：第24回マリンバイオテクノロジー学会大会実行委員会）2024年 5月 25日～ 26日、会場：筑波大学春日キャンパス

共催 1 件

- (2) 「IBC（国際植物科学会議）」（2024年7月21日～27日 場所：スペイン，マドリード）におけるJPRシンポジウムの開催

イ. 研究業績の表彰その他研究の奨励

学会賞選考委員会

- (1) 2024年度日本植物学会賞候補者の選考（大賞、学術賞、奨励賞、若手奨励賞、特別賞（技術・教育・その他））を行い、会長に報告してその承認を得るとともに、理事会に報告した。
- (2) 2025年度日本植物学会賞の選考にあたり、候補者の募集を行った。

JPR編集委員会

JPRに掲載された論文からJPR論文賞候補を選考し、会長に報告してその承認を得るとともに、理事会に報告した。

ウ. 国内外の関係学術団体との連絡及び協力

学協会委員

生物科学学会連合、光生物学協会、自然史学会連合、男女共同参画学協会連絡会に委員を派遣し、協力した。

ダイバーシティ推進委員会

第22期男女共同参画学協会連絡会の運営委員会、同連絡会主催のシンポジウムに参加し協力した。

学会全体

- (1) 日本学術会議第二部基礎生物学委員会、統合生物学委員会・農学委員会合同植物科学分科会と連携・協力を行った。
- (2) 生物科学学会連合を通じて、参加学会との連携・協力を行った。
- (3) 各地の植物学会との連携・協力を行った。

エ. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

各地の植物学会を通じて、研究動向調査を行った。広報委員会を通じて、植物科学教育研究情報の収集とウェブサイトでの公開を行った。

3. 管理業務

運営委員会

- (1) 2023年度の事業報告案と決算案を検討、作成した。
- (2) 2024年度補正予算案及び2024年度の事業計画案と予算案を検討、作成した。
- (3) 学会全体と学会内の委員会が関与する諸事項を検討し、事前に対応策を立案し、理事会へ提案した。
- (4) JPR編集委員会の支援を継続的に行った。
- (5) 学会の財政基盤と運営を安定化するため、会員管理と会計管理の外部委託（一般社団法人 学会支援機構に委託）を開始した。
- (6) 大会運営補助のための基金の設立、及びJPR運営補助のための基金の整備を行った。
- (7) 学会の活性化のため、会員数の維持・増加にむけての方策を検討した。
- (8) 日本植物学会表彰制度の実施と広報の活発化を図った。
- (9) 公益法人資格を維持するために必要な業務を行った。
 - ① 公益法人認定基準に照らした学会運営状況を確認した。

- ② 内閣府公益認定等委員会へ事業計画、事業報告等を提出した。

庶務関係

- (1) 代議員会開催に関する準備と運営を行った。
- (2) 公益社団法人日本植物学会第7期代議員選挙事務を行った。
- (3) 会員サービスの向上を目的として各地の植物学会との連携を推進した。
- (4) 各種委員会との連携を強化した。
- (5) 公益法人体制における各種規程・契約の審議基準の見直し等、本部業務全般に渡る業務効率化の推進を行った。

会計関係

- (1) 2024年度の経理管理と決算処理を遂行し、2025年度予算案を策定した。
 - ① 単年度経常収支均衡を原則とする弾力性のある経理管理を行った。
 - ② 会計報告(四半期)および決算報告(年次)を行った。
 - ③ 単年度経常収支均衡の原則下での活力のある学会を目指した予算を策定した。
 - ④ 収入増、支出減のための所要の施策を検討した。
- (2) 各委員会等の新規事業立案に対して経理面での建議、支援を行った。
- (3) 各種引当預金の使用計画を具体的に策定した。
 - ① 中長期的視点に立った使用計画を立案した。
- (4) 中長期的学会運営に関し経理面の課題を検討し、会員・会計管理業務の外部委託を含む対策を立案し実施した。

広報委員会

- (1) ウェブサイトの恒常的なメンテナンス作業を行った。
- (2) ウェブサイトのアクセス解析を行い、コンテンツの向上を図った。
- (3) 委員長が運営委員会に運営委員として、また理事会にオブザーバーとして参加し、広報活動の強化に関して提言を行った。
- (4) 会員管理業務外部委託のための会員情報の取りまとめについて、補助的支援を行った。

選挙管理委員会

公益社団法人日本植物学会第7期代議員選挙を実施した。

II. 処務の概要

1. 定例代議員会1回、臨時代議員会1回、理事会6回、運営委員会3回およびその他の会合を開催した。
2. 諸規則の整備を行った。
3. 公益社団法人日本植物学会第7期代議員選挙を実施した。(2024年6月8日開票)
4. 役員等に関する事項

(1) 2024年 会長、理事、監事

【役員・理事】

代表理事(会長)	寺島 一郎	(東京大)
専務理事	野口 航	(東京薬科大)
副専務理事	杉山 宗隆	(東京大)
編集担当理事	且原 真木	(岡山大)
理事	川合 真紀	(埼玉大)
理事	高野 博嘉	(熊本大)
理事	東山 哲也	(東京大)
理事	彦坂 幸毅	(東北大)
理事	松永 幸大	(東京大)
理事	森田(寺尾)美代	(基生研)
庶務担当理事	大谷 美沙都	(東京大)
会計担当理事	平川 有宇樹	(広島大)

【役員・監事】

	三村 徹郎	(京都先端科学大)
	久堀 徹	(総研大)

(2) 公益社団法人日本植物学会第7期代議員 47名

所属地区 (代議員定数)	氏名	所属
北海道 (2名)	田中 亮一	北海道大学 低温科学研究所
	藤田 知道	北海道大学 理学研究院
東北 (4名)	植田 美那子	東北大学 生命科学研究科
	経塚 淳子	東北大学 生命科学研究科
	笹部 美知子	弘前大学 農学生命科学部
	宮沢 豊	山形大学 理学部
北陸 (2名)	小藤 累美子	金沢大学 生命理工学系
	西川 周一	新潟大学 自然科学系
東関東 (6名)	石田 健一郎	筑波大学 生命環境系
	岩井 宏暁	筑波大学 生命環境系
	大谷 美沙都	東京大学 大学院新領域創成科学研究科
	朽津 和幸	東京理科大学 創域理工学部
	壽崎 拓哉	筑波大学 遺伝子実験センター
	松永 幸大	東京大学 大学院新領域創成科学研究科
西関東 (5名)	朝比奈 雅志	帝京大学 理工学部
	児玉 豊	宇都宮大学 バイオサイエンス教育研究センター
	杉本 慶子	理化学研究所 環境資源科学研究センター
	日原 由香子	埼玉大学 理工学研究科
	平井 優美	理化学研究所 環境資源科学研究センター
東京 (7名)	阿部 光知	東京大学 大学院総合文化研究科
	伊藤 (大橋) 恭子	東京大学 大学院理学系研究科
	植村 知博	お茶の水女子大学 基幹研究院
	塚谷 裕一	東京大学 大学院理学系研究科
	東山 哲也	東京大学 大学院理学系研究科
	永田 典子	日本女子大学 理学部
	成川 礼	東京都立大学 理学研究科
中部 (5名)	芦荊 基行	名古屋大学 生物機能開発利用研究センター
	上田 貴志	基礎生物学研究所 細胞動態研究部門
	小田 祥久	名古屋大学 理学研究科
	川口 正代司	基礎生物学研究所 共生システム研究部門
	木下 俊則	名古屋大学 理学研究科
近畿 (8名)	石崎 公庸	神戸大学 理学研究科
	池内 桃子	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科
	稲田 のりこ	大阪公立大学 大学院農学研究科
	上田 晴子	甲南大学 理工学部
	工藤 洋	京都大学 生態学研究センター
	野田口 理孝	京都大学 理学系研究科
	深城 英弘	神戸大学 理学研究科
	吉田 聡子	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科
中国 (3名)	嶋村 正樹	広島大学 統合生命科学研究科(理)
	中川 強	島根大学 学術研究院農生命科学系
	本瀬 宏康	岡山大学 環境生命自然科学学域
四国 (1名)	峯 一朗	高知大学 教育研究部総合科学系黒潮圏科学部門
九州 (3名)	楠見 健介	九州大学 理学研究院
	仁田坂 英二	九州大学 理学研究院
	檜垣 匠	熊本大学 大学院先端科学研究部(理)
沖縄 (1名)	傳田 哲郎	琉球大学 理学部

5. 代議員会

(1) 定例代議員会

2024年3月2日（土）13:00-15:40、日本植物学会事務局ならびに ZOOM によるオンラインで開催され、次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催年月日	議決事項	
2024年 3月2日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会 2023年度決算報告（案）	承認

(2) 臨時代議員会

2024年9月13日（金）15:30-17:22、宇都宮大学（A会場：2,3号館1階212教室）にて開催され、次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催年月日	議決事項	
2024年 9月13日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会 2025年度事業計画(案)	承認
	第2号議案 公益社団法人日本植物学会 2024年度収支補正予算(案)	承認
	第3号議案 公益社団法人日本植物学会 2025年度収支予算(案)	承認
	第4号議案 令和7年資金調達及び設備投資の見込みについて	承認
	第5号議案 次期選挙管理委員の承認について	承認

6. 理事会

(1) 2024年度第1回理事会

2024年2月12日（月）13:00-17:18、日本植物学会事務局ならびに ZOOM によるオンラインで開催され、以下の審議を行った。

開催年月日	議決事項	
2024年 2月12日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会 2023年度事業報告（案）	承認
	第2号議案 公益社団法人日本植物学会 2023年度決算報告(案)	承認
	第3号議案 2023年度の剰余金解消予定について	承認
	第4号議案 第7期代議員選挙日程について	承認
	第5号議案 次期運営委員の承認について	承認
	第6号議案 会費未納による会員資格喪失対象者について	承認
	第7号議案 「ICAR 派遣補助金」の運用方法について	承認
	第8号議案 今後の大会担当地区割について	承認
	第9号議案 会計処理規程の改定について	承認
	第10号議案 非常勤職員の契約について	承認
	第11号議案 2024年度定例代議員会について	承認
	第12号議案 2024年度定例代議員会に於ける書面による議決権行使の承認並びに書面による議決権行使期限の承認について	承認

(2) 2024年度第2回理事会

2024年7月19日（金）、定款29条2項に基づく理事会決議において開催され、以下の審議を行った。

議決年月日	議決事項	
2024年 7月19日	第1号議案 JPR シンポジウムのオーガナイザーへの宿泊費および日当の支給の承認について	承認

(3) 2024年度第3回理事会

2024年8月10日（土）、13:30-16:14、公益社団法人日本植物学会事務局ならびに ZOOM によるオンラインで開催され、以下の審議を行った。

議決年月日	議決事項	
2024年 8月10日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会 2025年度事業計画書（案）	承認
	第2号議案 公益社団法人日本植物学会 2024年度収支補正予算（案）	承認
	第3号議案 公益社団法人日本植物学会 2025年度収支予算（案）	承認
	第4号議案 令和7年度資金調達及び設備投資の見込みについて	承認
	第5号議案 公益社団法人日本植物学会地区代表代議員の選定について	承認
	第6号議案 公益社団法人日本植物学会第89回大会大会長 大会実行委員長について	承認
	第7号議案 公益社団法人日本植物学会契約委員（福岡大会）について	承認
	第8号議案 2024年度臨時代議員会について	承認
	第9号議案 2024年度臨時代議員会に於ける書面による議決権行使の承認並びに書面による議決権行使期限の承認について	承認

(4) 2024年度第4回理事会

2024年8月23日（金）、定款29条2項に基づく理事会決議において開催され、以下の審議を行った。

議決年月日	議決事項	
2024年 8月23日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会 中国地区代表代議員の選定について	承認
	第2号議案 公益社団法人日本植物学会契約委員（外部委託）の承認について	承認

(7) 2024年度第5回理事会

2023年10月15日（火）、定款29条2項に基づく理事会決議において開催され、以下の審議を行った。

議決年月日	議決事項	
2024年 10月15日	第1号議案 公益社団法人日本植物学会賞受賞者選考規程 第2条第1項の改定について	承認

(8) 2024年度第6回理事会

2024年11月18日（月）、定款29条2項に基づく理事会決議において開催され、以下の審議を行った。

議決年月日	議決事項	
2024年 11月18日	第1号議案 学会ホームページに関するサーバー管理会社との一部契約変更：DNSアウトソーシングサービスの契約追加について	承認

7. その他 諸規則の整備を行った。

Ⅲ. 会員の推移（夏期）

【人】

会員種別	2014. 8. 13	2015. 8. 18	2016. 8. 23	2017. 7. 21	2018. 7. 12	2019. 7. 3	2020. 7. 6	2021. 7. 9	2022. 7. 10	2023. 7. 2	2024. 7. 5
名誉会員	7	7	7	6	5	5	5	3	8	7	7
正会員	1,903	1,874	1,826	1,818	1,812	1,741	1,692	1,661	1,674	1,840	1,786
内終身会員	10	10	10	10	9	8	8	8	7	7	7
内50年会員	121	118	114	112	109	113	102	101	105	107	107
内シニア会員						48	80	94	101	102	109
内学生会員	426	451	405	421	411	383	357	353	373	482	460
内上記以外の 正会員	1,346	1,331	1,297	1,275	1,283	1,189	1,145	1,105	1,088	1142	1103
団体会員	14	14	10	10	10	10	10	9	9	9	9
賛助会員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
海外個人会 員（日本人 含む）	124	126	134	133	147	152	132	110	108	34	33
合 計	2,049	2,022	1,978	1,968	1,975	1,909	1,841	1,784	1,800	1,891	1,836

Ⅳ. JPRの出版状況の推移

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
投稿件数	562	520	632	651	712	511	928	797	705	726	1,142
（国内）	61	53	73	69	70	61	59	49	40	53	51
（海外）	501	467	559	582	642	450	869	748	665	673	1,091
出版論文数	74	86	106	95	86	67	67	96	58	65	81
（国内）	37	43	50	45	44	34	32	38	21	25	35
（海外）	37	43	56	50	42	33	35	58	37	40	46
IF	1.823	1.684	1.899	2.000	2.082	2,185	2.629	3.000	2.8	2.7	未発表

Ⅴ. 学術集会（大会）の参加者数・演題数の推移

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
開催地	神奈川	新潟	沖縄	野田	広島	仙台	名古屋	東京	京都	北海道	宇都宮
参加者数	1,002	910	669*	964	846	815	1,199	936	1,135	962	1,007
演題数	547	513	524	613	568	563	541	542	625	615	602

*大会参加費を支払った人数

事業報告に係る附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。